

七

福井藩士履歴

よ



横田十右衛門

百五拾石 外役料百石

於松岡御横目物頭、御相続後仮役

享保七寅十一月九日本役被仰付、御役料被下

同十七子七月廿一日御預所御目付真杉所左衛門跡

横田作太夫

貳百石 役料百石

元文元辰六月十五日父十右衛門隠居、家督無相違、大番入

同三年六月十八日御手廻り御書院番入

同七月十一日御供目付波多野文右衛門跡

延享三寅六月廿八日御使番、役料百石

寛延元辰七月廿八日御聞番

宝曆四戌三月十八日御先物頭順席

同十一巳正月十一日津田九右衛門跡、弓組御預ケ

同十三未二月朔日長袴格被仰付、席長谷川次郎左衛門次

明和二酉三月五日五拾石御加増

同五子七月十三日於江戸新番頭白石十郎右衛門跡

同七寅五月廿八日御近習御武具忍組支配、御奉行次席

横田作太夫

貳百石 役料百石

明和二酉三月十三日御擬作並之通、中奥御小性
同七寅六月五日御小性頭取

安永四未八月廿五日父作太夫跡知無相違被下、勤方は迄之通、尤自分御
擬作上ル

同七戌七月廿四日御腰物方皆川善兵衛跡

同九子十一月廿一日御水主頭波多野五郎左衛門跡、御役料百石

天明三卯三月朔日御目付介御側武頭秋田八左衛門跡

同年九月十六日御目付秋田七郎兵衛跡

同八申六月十四日御役御免、御先武頭次席

同九酉正月十四日御先武頭井上半太夫跡、御役料百石

同年三月 江戸御聞番御先物頭順席

寛政四、二月席御側物頭次

同十二申七月 御普請奉行鈴木清左衛門跡、右於江戸

享和三御側武頭山田次郎太夫跡

文化元子十月 御預所元締役秋田又左衛門跡

同五辰七月廿二日寺社町奉行白石十郎右衛門跡

同十二亥二月四日御中老取扱二而年来出精二付、御内二而銀五枚年々被

下

同十四丑正月廿一日隠居被仰付、折々御機嫌伺中ノ口往来御坂札拝領、

且又御中老取扱二而是迄被下候銀五枚之上、都合銀七枚ツ、年々被下置

候

横田作太夫 藤九郎

貳百石

文化十四丑正月廿一日父作太夫年寄候二付隠居被仰付、家督無相違、大御番入

同年六月廿日若殿様御附小姓恒五郎様御附兼帶

文政十一子七月廿二日御小性頭取大道寺十助跡

文政十三庚寅六月三日秋田三五左衛門跡、御目付役被仰付、御役料百石

被下置

天保十一子二月廿九日御預所掛り

同年十月廿五日新番頭秋田三五左衛門跡被仰付

同十二丑六月十一日御奉行井上半太夫跡被仰付候

弘化二巳三月五日御役前不参届趣有之御役御免、遠慮、御先物頭次席被仰付

同三年六月十六日御先物頭高屋伊左衛門跡被仰付、御役料百石被下置

弘化四未正月十三日御目付雨森儀右衛門跡被仰付、席土屋十郎右衛門上

弘化五申三月五日長袴格御奉行次席、但秋田三五左衛門次

嘉永二酉四月十九日於江戸病死

横田藤九郎

貳百石

嘉永二酉五月十一日親作太夫家督二百石無相違被下置、大御番組へ被入

同年同月廿日御近習番小栗三次郎跡被仰付、御書院番組へ被入

横田与三五郎

貳百石

嘉永二酉九月廿九日養父藤九郎病中願之通養子被仰付、家督無相違被下

置、大御番組へ被入候
同三戌七月廿日病死

横田兵藏 七之助

高貳百石 外役料廿五石

嘉永三戌九月十一日養父与三五郎跡知無相違、大御番入

安政三辰正月十六日御近習番御書院番入

同五年七月六日中将様御用兼

同六年二月廿日御書物方

同六年十月五日御裏役

万延元申十月五日御裏役其儘奥御納戸役定介

同二酉正月廿五日奥御納戸役

慶応二寅二月五日御腰物数寄方奉行

同年四月廿五日役儀其儘御持筒指揮役、末之番外格、席吉田喜左衛門

次

同年十月廿六日席其儘御持副物頭、御役料廿五石

同三卯十月十八日半小隊長



吉岡伝五右衛門

百五拾石 外百石役料

元禄十二卯十二月廿二日被召出

享保八卯二月二日御腰物奉行津田弥太郎跡

〔役成〕

同九辰八月廿六日御役御免、大番入
同十九寅七月廿一日番改

吉岡庄右衛門 伝吾
百五拾石

元文二巳八月二日新知百石被下、勝姫様へ被付

寛政五丑九月五日父庄右衛門内願二付隠居被仰付、家督無相違、大番入

同十月廿八日御留守番入、勝姫様御取次役被仰付

同七卯二月廿二日御部屋附御小性

元文三年二月十五日大番入

文化元子八月九日奥御納戸權太彦兵衛跡

同五申六月五日御膳番土屋甚五右衛門跡、御書院番入

同五辰ノ九月廿日奥御納戸役其儘御近習番頭取格

寛保二戌二月廿五日御書院番筆頭

文化九壬申十月二日御使番格御時宜役

延享元子十月廿五日御役御免、番外御近習へ可相談旨

文化十一戌十二月三日御留守物頭波々伯部八十八跡

寛延二巳六月五日御長柄奉行、五十石御加増、役料百石、永田四郎兵衛

文政三辰九月廿一日御先物頭跡部主計跡、御役料百石

跡

文政十亥六月廿三日隠居

吉岡庄右衛門 鉄太郎

吉岡孫太夫 雅楽

百五拾石 役料百石

百五拾石

宝暦二申十一月廿二日養父伝五右衛門隠居、家督無相違、大番入

一文政十亥年六月廿三日父庄右衛門家督無相違被下置、大御番組江被入

同七丑七月廿二日御手廻り御書院番入

一天保二卯年江戸詰被仰付、三月十七日出立

同十一巳十月廿二日御駕附

一同六未年江戸詰被仰付、閏七月廿五日出立

明和五子八月十三日御駕附御免、御近習番格、席是迄之通

一同十一子年江戸詰被仰付、四月十三日出立

同六丑正月十六日御附御近習番

一嘉永四亥二月廿五日与内立合岩村他三郎跡被仰付

同七寅八月七日御附御納戸小栗十右衛門跡

一安政四巳四月廿日御書院番組へ被入候

安永二巳正月廿五日御膳番

一万延元申九月十六日格式末ノ番外被仰付候

天明元丑十一月廿日御使番中村太郎左衛門跡、御役料百石

同三卯三月朔日御水主頭横田勝之助跡

吉岡伝吾 雅熊

天明八申六月十五日御先物頭長谷部半右衛門跡

高百五拾石

文久二戌閏八月四日父孫太夫隠居、家督無相違、大御番入

〔役成〕

慶応三卯四月十一日大御番三番之筆頭役

同年十月十八日第一遊撃隊分隊長、役儀二付席末之番外格、杉田無二介次

同四辰四月廿五日五番遊撃隊半隊長

横井¹

横井惣右衛門

百石 外五人扶持

元禄四未四月廿一日養父玄節跡知無相違

宝永元申三月四日奥御納戸

正徳元卯十一月七日御役御免、大番入

享保九辰九月五日与内立合

横井惣右衛門 久太夫 大吉

百石五人

享保十七子九月十九日養父惣右衛門休足、家督無相違被下、大番入

寛保二戌八月五日山奉行香西弥右衛門跡、御留守番入

寛延四未三月廿日休足、蟄居

横井久太夫 奥四郎

百石五人

寛延四未三月廿日養父惣右衛門蟄居被仰付、久太夫へ家督無相違被下、

大番入

明和元申十一月廿五日山奉行野中市兵衛跡、御留守番入

安永四未十月十一日御留守作事

同八亥九月廿日御作事奉行梯左伸太跡、御役料百五拾石

天明三卯十月十六日御役御免、大番入

横井久太夫

百石五人

天明九酉正月十四日父久太夫休息、家督無相違、大御番入

寛政九巳九月廿五日道奉行上水方取扱兼帶岡田喜右衛門跡

同十二申八月廿日御金奉行土屋市兵衛跡被仰付

横井宗右衛門 久太郎

百石五人

文化五、三月廿九日父久太夫家督無相違、大御番入

文政六未四月三日御金奉行武部昇跡

文政十二巳丑八月廿九日御札所奉行荒川団次郎跡被仰付

横井宗太郎

百石五人扶持

天保三辰九月十六日親惣右衛門家督百石五人扶持無相違、無役御留守番

組へ被入候

天保九戌四月廿日大御番組へ被入

同年七月十日御小姓川瀬安五郎跡

同年十月廿五日今度御代替二付御小姓御免被成、御側支配御近習二被差

置、勤方之儀ハ追而被仰付、御用筋之儀先是迄之通可申談候
同年同月廿九日御小姓被仰付

横井五百里 吉十郎 孫左衛門 孫太夫

〔役成〕

高百石五人扶持

天保十二丑四月五日養父宗太郎跡知無相違、大御番入

同十四卯八月廿五日御近習番御書院番入

弘化三年十月朔日御書物方

嘉永元年申九月十五日御裏役

同三戌六月三日奥御納戸

同年八月五日御役御免、大御番入

安政六未六月十一日御腰物数寄方奉行御書院番入

文久元酉十月十三日御附御近習頭取

同二戌八月五日御附御近習頭取其儘御部屋附兼御供御免

同四子正月九日御附御近習番頭取御膳番奥ノ番兼

元治元子八月廿三日御近習番頭取御書院番二番之筆頭役、格式末之番外、

席岡半右衛門次

同二丑二月廿二日御附御供頭見習御徒頭次席、御役料五拾石、席加藤良

左衛門次

慶応二寅十一月廿九日席御役料其儘御附御馬廻り頭取御附御供頭兼

同三卯三月廿九日御役料五拾石御増、都合百石、御使番順席

横井惣十郎 隠居

百石

明和元申十二月十六日父三郎右衛門休息、家督無相違、大番入

同三戌三月廿日表御小性

安永五申八月十四日若殿様御近習番御書院番入

同七戌正月十六日御附御小道具方

天明四辰十月十二日御附奥御納戸

寛政三亥四月廿九日末ノ番外御時宜役

同八辰八月三日御纏奉行梶川半兵衛跡

横井三郎右衛門

百石

寛政十三酉二月二日親惣十郎内願二付隠居、家督無相違、大御番入

同月十四日御近習番御書院番入

文化八未二月七日御書物方堀十兵衛跡

同十四丑六月五日御時宜役

文政六未九月病死

横井三郎右衛門 丑之丞

百石

一文政六未十月廿五日養父三郎右衛門家督無相違、大御番組江被入

一同十二丑江戸詰、四月十六日出立

一天保二卯十一月十六日養母不埒二付蟄居、三郎右衛門義ハ遠慮

一同十二丑七月廿日与内立合香西益太郎跡被仰付

横井

2

此前代か二出、但神戸与号

- 一 嘉永元申十一月五日与内檢地奉行野治小兵衛跡被仰付
- 一 同四亥二月廿五日道奉行佐野雄藏跡被仰付、大御番組へ被入
- 一 同五子六月十六日格式末之番外二被仰付、役義之義ハ御免被成候
- 一 同六丑二月十四日病身二付内願之通隠居

神戸六左衛門 横井芳吉

〔略履歴〕

一 高百石

右同日養父三郎右衛門病身二付内願之通隠居被仰付、家督無相違如此被
下置、大御番組江被入候

同年三月十一日御近習番津田弥三郎跡被仰付、御書院番組江被入候

同六丑七月廿日御手元御用向二付、支度出来次第出府被仰付候

同七寅三月廿三日右御用相濟勝手次第罷帰候様被仰付候

同十月十三日来卯年江戸御供詰

安政下改元、寅十二月廿八日牛之丞与改名

同四巳六月廿日御書物方被仰付候

同五年五月五日当秋江戸詰被仰付候

同八月十五日当秋江戸詰御免被成候

同九月廿五日表御小姓被仰付候、但席村上郡太夫次

文久二戌年十一月十五日中将様御上京御供被仰付、来正月廿五日迄二出

府候様被仰付候

元治元子十二月神戸六左衛門与改姓名

慶応二寅十月廿六日御馬廻り被仰付

同三卯三月朔日今般殿様御立帰御上京被遊候付御供被仰付

同月五日御供頭差添被仰付

同十月廿一日御趣意二付御馬廻り御免被成、御書院番組江被入



吉田五左衛門

百石

明暦三酉七月親死去、家督之月日不相知

延宝八申三月十日道奉行

宝永七寅二月廿二日御役御免

吉田五左衛門

百石

正徳元卯十一月七日父五左衛門家督無相違被下

寛保三亥十月廿日与内立合

吉田五左衛門 亀次郎 病死

百石

寛延四未四月廿五日父五左衛門休足、家督無相違、大番入

宝暦十二午二月五日山奉行市橋条右衛門跡、御留守番入

明和五子七月廿日御勘定拝借奉行蜷川林左衛門跡

吉田四郎左衛門 五左衛門

百石

安永七戌十一月廿五日父五左衛門跡知無相違、大番入

同八亥正月十六日表御小姓見習

同九子八月四日表御小姓見習御免、大御番組へ被入

寛政二戌六月十三日御近習番御書院番入

同六寅七月十日御近習番御供頭河合百助跡

吉田五左衛門 石五郎

百石

寛政九巳年四月五日吉田四郎左衛門病中願之通養子二被仰付、家督無相違、大御番入

文化十二亥七月十八日林半之丞跡、無役御留守番世話役被仰付候

文政三辰十月廿五日月並御礼之節御留主番順席二入、御礼申上候様被仰付

文政七申七月廿九日林次郎七跡、山奉行

文政十三寅三月廿日河合弥三兵衛跡、御纏奉行被仰付

天保四巳三月十五日御使番有賀忠兵衛跡、御役料百五拾石被下置

同五年十一月十日御水主頭一柳新九郎跡、御役屋敷へ替被下候

同十一子十月廿五日御先物頭荻野鍋八郎跡被仰付、鈴木百助家屋敷へ替

被下

嘉永元申九月十五日御普請奉行福田八郎右衛門跡被仰付

同三戌年正月十六日御旗奉行太田三郎兵衛跡被仰付候

嘉永三戌十一月廿八日隠居

吉田五左衛門 石五郎

高百石

嘉永三戌十一月廿八日父五左衛門隠居、家督無相違、大御番入

同五子六月九日御近習番御書院番入

安政三辰二月廿日御書物方

同四巳六月廿日御裏役

同六未九月十六日奥御納戸

慶応元丑五月六日御膳番格御鶉方

同二寅十月廿六日末之番外格、御鶉方御免、席岸猪之助次

同三卯十二月十五日席其儘小馬印奉行



吉田弥十郎

貳拾五石五人

宝永七寅七月十六日父弥一右衛門為跡目五人扶持被下

享保十一午十一月六日表御小姓、御切米並之通被下

吉田伊兵衛 孫三郎 同五十年 病死

百石

享保十五戌十二月廿五日養父弥十郎跡目無相違、大番入

元文三年十一月十六日表御小姓

同五申閏七月九日中奥

延享二丑正月十五日御次詰御書院番入

寛延三年二月十一日御次詰御免、大番入

同年六月五日御手廻り御書院番入

〔役成〕

宝曆八寅七月廿五日御駕附村田十太夫跡

同九卯二月廿二日御役御免、大番入

同十四申四月十六日御次詰御書院番入

明和五子七月廿日御書物奉行

安永四未二月十四日新知百石

同五申正月十六日奥御納戸大町次左衛門跡

吉田吉之丞

百石

安永九子九月五日親伊兵衛家督無相違、大御番入

天明五巳正月十五日御小性

同年二月十五日御近習番格御書院番入

同七未三月十四日御形合被相改万端御省略二付、御近習番格御免、大御

番入

文化六巳正月廿八日道奉行中村權太夫跡

同十四丑八月廿日御預所御金奉行八田弥次兵衛跡、御留主番入

同十五寅三月五日御裏役小栗助七跡、御書院番入

文政三辰十二月十七日格式末番外被仰付候

文政十亥年三月五日隱居

吉田伊兵衛 宗八

百石

一文政十亥三月五日養父吉之丞隱居、跡知無相違被下、大御番組へ被入

一天保三辰江戸詰、四月五日出立

一同八酉江戸詰、四月十五日出立

一同十二丑江戸詰、三月廿三日出立

一弘化元辰五月三日御金奉行小嶋逸八跡被仰付

一同三午五月廿五日御役御取揚、閉門

一同四未十月廿五日養子新六不慎二付遠慮被仰付、右二付遠慮伺之上指扣、

同廿九日御免

（嘉永）一同五子六月十六日与内檢地奉行岩村他三郎跡被仰付、御留守番組へ被入

候

一同六丑三月十一日年寄候二付休息被仰付候

吉田作太夫 新六

高百石 外役料五拾石

嘉永六丑三月十一日養父伊兵衛休息、家督無相違、大御番入

安政四巳三月十二日表御小姓

文久元酉五月三日郡方吟味役山奉行兼御留守番入、小者給老人扶持銀三

百匁

同三亥八月四日郡奉行榊原幸八跡、御役料百石、御役人並

慶応元丑九月廿二日御先手大馬印奉行御使番次席、御役料廿五石

同二寅十月廿六日席御役料其儘御持副物頭

同三卯十月十八日席其儘小隊頭、御役料御増、都合五拾石

明治元辰十月九日御役料其儘予備小隊頭

吉田熊次郎

五人扶持

〔役成〕

〔役成〕

慶応四辰四月廿五日被召出、御扶持方五人扶持、遊撃隊入

文化八未十月十六日出精相勤候二付三十石御加増

吉田³

此前代を二出、但恩田与号

吉田茂助

百三拾石

吉田喜右衛門 茂左衛門 隠居 同廿六年
百石 外役料百五十石

文化十二乙亥二月四日養父茂左衛門年寄候二付隠居被仰付、家督無相違、大御番入、弓師匠被仰付

寛延二巳七月廿五日父茂左衛門跡知無相違、大番入、同日師役

文政九戌年病死

宝曆元未十一月廿五日札所奉行粕谷彦左衛門跡

同十一巳十一月廿九日御留守物頭山名次郎右衛門跡

吉田茂左衛門 喜太郎事

明和四亥閏九月十六日御先物頭加藤半左衛門跡、役料百五十拾石

百三拾石

吉田茂左衛門

百三拾石 役料百石

一文政九戌四月五日親茂助家督百三拾石無相違被下置、大御番組へ被入、流義之弓師役被仰付候

安永五申七月十五日父喜右衛門隠居、家督無相違、大番入、同日師役被

一天保十亥六月十六日山奉行東郷平太夫跡被仰付候、御留守番組へ被入

仰付

一同十二丑十二月五日与内檢地奉行磯野仲右衛門跡被仰付候

同八亥九月廿日与内檢地奉行森田安兵衛跡

一弘化四未二月十四日御勘定拜借奉行御趣意金取扱小嶋逸八跡被仰付候

天明元丑十月廿五日札所奉行沢木彦太夫跡、大番入

一嘉永元申十一月五日小馬印奉行山本清右衛門跡被仰付候

寛政二戌九月廿日勤方其儘二而未ノ番外、村上郡太夫次

一同七寅五月廿日御役御免被成、末之番外被仰付、但末席へ被入候事
但右二付遠慮伺之上指扣被仰付、廿六日御免

寛政四子六月十七日年来出精相勤候二付、格式御使番格福山藤右衛門次

一安政三辰四月十五日御徒頭金子十郎平跡被仰付、御役料五拾石被下置候

二被成下、御役料五拾石被下置

一同四巳四月廿三日数代師役相勤別而近来出精太儀思召候、依之御目録銀

同八辰八月三日御札所目付、御役料都合百五十拾石、御先物頭次席御役人

五枚被下置候

並

一同五午正月廿五日年寄候二付隠居被仰付候

文化元子年十二月廿日出精相勤候二付御側武頭次席被仰付

文化六巳二月七日長袴席

吉田
4

吉田平次左衛門

廿石三人

寛政二戊五月廿八日御徒目付方御取立、大番入、是迄之役筋可相勤旨

同三亥正月十六日御勘定吟味役御留守番入

同八辰正月十六日式石御加増、都合廿石三人扶持

同十年十二月十一日御代官伊黒弥三右衛門跡

文化十一戊十二月九日休息

吉田平次左衛門 八太夫 八郎左衛門

式拾石三人

文化十一戊十二月九日父平次左衛門休息、家督無相違、無役御留守番入

同十三子七月五日御広式御用達岡田喜右衛門跡、御留守番入

文政六未二月五日破損奉行

文政十一子六月廿九日御作事方改役

文政十三寅三月十六日御先武具奉行木内市郎左衛門跡被仰付、大御番組

へ被入

天保五年五月三日御花畑絵奉行原田清兵衛跡被仰付、御留守番組へ被入

候

天保十亥十二月四日御定之年数相満候ニ付相身躰末席

天保十一子十二月五日御代官跡部又八跡被仰付

同十五辰ノ六月廿日休息

吉田祐藏 順席也

廿石三人

一弘化元辰六月廿日親平次左衛門休息、家督無相違被下置、無役御留守番

組江被入

一嘉永五子七月廿六日御右筆見習被仰付候

一同七寅五月三日御右筆本役被仰付、御書院番組へ被入、御足充行五石式

人扶持被下置候

一安政四巳四月廿五日江戸御供詰出立

一安政四巳九月三日順席ニ被成下候

一同五年七月七日今般御家督御相統御用掛り被仰付候

一同年十二月十一日右同断出精ニ付、御紋御上下一具被下置候

一文久二戌十二月九日来亥年詰引揚支度出来次第出立

一同三亥八月六日於江戸表病死

吉田織衛 乙五郎

切米廿石三人扶持

文久三亥十月十一日養父祐藏跡目無相違、大御番入

吉田
5

吉田伊太夫

廿五石五人

元禄十二卯三月七日父徳左衛門跡目

〔役成〕

吉田真之丞

廿五石五人

享保廿一辰正月十六日養父伊太夫跡目無相違被下、大番入

吉田弥八郎 金五郎 弥一右衛門 隱居

百石 役料百五拾石

元文二巳七月廿一日養父真之丞跡目被下、大番入

同五申六月五日表御小姓

寛延三年十月廿九日御小姓御免、大番入

明和三戌五月廿日御次詰御書院番入

同五子七月九日與御納戸數賀山彦右衛門跡

同年七月廿三日御近習番頭取

同年九月廿四日筆頭御膳番格

同七寅九月十四日御膳番頭取其儘

同九辰九月廿四日新知百石

安永三、六月廿六日御膳番筆頭筒井仁右衛門跡

同九子十一月廿一日御徒頭淺見又七郎跡、御役料百五十石

天明四辰八月十日御先物頭彦坂又兵衛跡

吉田猪太夫

百石

天明九酉正月十四日父弥八郎隱居、家督無相違、大御番入

文化十一戌十二月十六日年来鎗術相心掛候二付金式百疋被下

同十五寅正月十六日年寄内願二付休足被仰付

吉田喜左衛門

百石

文化十五寅正月十六日親伊太夫年寄内願之通休足被仰付、家督無相違被

下置、大御番入

吉田喜左衛門 捨六 弥八郎 喜十郎

高百石 外役料三拾石

弘化三年四月五日養父喜左衛門跡知無相違、大御番入

嘉永七寅八月三日御小姓

安政五年七月六日中將様御附御小姓

万延元年六月十九日御附御近習頭取

文久元酉十月十三日御附御近習頭取御免、御書院番入、御近習

同三亥十月廿四日御腰物數寄方奉行

慶応二寅四月廿五日役儀其儘飯御持筒指揮役、末之番外格、席稻生二太

夫次

同年十月廿六日席其儘御持副物頭、御役料廿五石

同三卯十月十八日半小隊長

同四辰三月十二日子備小隊頭栃屋政之助跡、末之番外順席、御役料御増、

都合三拾石、席鈴木牛兵衛次



吉田有斎 仙庵 病死

〔役成〕

百石

寛延元辰十一月十一日家業宜二付被召出、表針医

宝曆二申六月廿五日奥御針

同三酉正月十六日五石御加増

同九卯閏七月廿二日江戸定府

明和元申年御国へ引越

同二酉二月廿日新知百石

同九辰九月廿四日奥医格被仰付

安永九子十一月廿一日御匙医格

吉田仙庵

病死

百石

天明三卯十月廿日養父有斎跡知無相違被下、表御針医

同四辰五月十三日奥御針医師

明和八卯六月十一日不慎之義有之御呵急度慎、但無息之内也

吉田有斎

仙格

百石

天明七未七月十一日養父仙庵跡知無相違被下置、表御針医

寛政六寅十月五日奥御針医

文化七午四月十一日向後江戸詰之節、御国渡り五人扶持被下置

文政七申九月十六日病身二付願之上休息

百石

文政七申九月十六日親有斎病身二付願之上休息被仰付、家督無相違、表

御針医師

同年十月廿四日奥御針医師被仰付

天保八酉十二月十二日於江戸当春不慎之趣有之二付遠慮

弘化三年二月廿九日江戸詰之節、留守ふち五人被下

吉田仙菴

仙格

高百石

弘化三年五月廿日養父益庵跡知無相違、表御医師

安政三辰十一月五日奥御鍼医師



吉田伝右衛門

拾五石三人

延享三寅八月廿五日御取立、新番組へ被入、御年男其儘

吉田伝右衛門

拾五石三人

宝曆二申十一月廿一日養父伝右衛門休息、家督被下、新番

同三酉正月十六日御料理方見習

天明六年十一月十一日御定之年数相満候二付大御番入

吉田益庵

[役成]

吉田伝右衛門 忠太郎
拾七石三人

寛政六寅八月廿八日父伝右衛門休息被仰付、家督無相違被下、御料理方被仰付、大番入

文化七年八月廿九日御定之年数相満候ニ付相身代末

文政十亥十二月十六日年来出精ニ付二石御加増

文政十二己丑十一月廿九日井上勘右衛門跡、御年男被仰付

吉田伝右衛門 伝之助
拾七石三人

一天保三辰七月十一日親伝右衛門家督無相違、大御番組江被入、御料理方被仰付候

一同十一子江戸詰

一嘉永四亥神田橋御住居両御丸様御立寄ニ付立帰りに出府

一同年四月廿九日右同断ニ付御褒詞

一同七寅十月廿一日御趣意ニ付御料理方御免被成、無役御留守番組へ被入候、且又是迄出精相勤太儀ニ付御褒詞

安政六未二月五日年寄候ニ付休息

吉田榮之助

切米拾七石三人扶持

安政六未二月五日養父伝右衛門休息、家督無相違、大御番入

万延元申九月四日御定之年数相満候ニ付順席

〔役成〕



吉田新兵衛

拾五石三人

宝曆十一己十一月廿二日小役人格方御取立、新番入、御塩梅其儘
明和九辰六月廿九日御年男高階勘左衛門跡

吉田新兵衛

拾五石三人

安永三年八月廿九日父新兵衛休息、家督無相違、新番入、御料理方
同年九月十一日御塩梅役被仰付

寛政六寅八月廿八日御年男高野惣兵衛跡

寛政十二申九月五日御定之年数相満候ニ付大御番入

吉田新兵衛 虎之助

拾五石三人

文化四卯正月十六日父新兵衛跡目無相違、大御番入、御料理方

同七年十二月十一日当時勤方御免被成、御留守番へ被入

同九申十月十九日御趣意有之、無役御留守番入

文政三死

吉田新左衛門 文太郎

拾五石三人

一文政三辰三月廿五日父新兵衛家督無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一同十二丑大御番組へ被入

一天保十亥三月十六日弟格五郎儀井上小左衛門養子罷越候処、及離縁候始末、病身とハ乍申心得違之趣相聞候二付逼塞被仰付、其方儀も取扱方不

参届趣二付遠慮被仰付候

一弘化三年六月廿二日遠慮伺之上指扣之処、御免

一嘉永三戌九月十六日御定之年数相満候二付相身体末席被仰付

一同年十二月廿七日遠慮伺之上差扣被仰付置候処、御免

一安政二卯十月廿八日御留守武具奉行吉樹源藏跡被仰付、御留守番組へ被入候

一同六未二月五日御祈禱奉行川崎仁右衛門跡被仰付、大御番組へ被入候

一同七申三月廿九日御代官役坂上彦八郎跡被仰付、御留守番組へ被入候

一元治元子八月廿九日御趣意二付役儀御免被成、御留守番組ニ其儘被差置、是迄出精相勤候二付銀七枚被下置候

一同年十二月賊徒一件、御留守御用御手当銀百匁被下

一慶応元丑十月十六日昨年御趣意二付御役御免被成候処、是迄出精相勤候

二付御書院番組へ被入、年々銀五枚ツ、被下置候

一同二寅十一月三日今度御軍制御変革之御趣意二付、御広間当番勤被仰付候

一同三卯二月廿五日年寄候二付休息

吉田任重郎

〔役成〕

切米拾五石三人扶持

慶応三卯二月廿五日父新左衛門休息、家督無相違、大御番入、相身躰末席

吉田⁹

※横山吉太夫の後にあり

吉田悌藏 山守東篁 吉田金八俣 土居奉行下役

拾人扶持

一嘉永四亥七月五日年来学問心掛ケ宜二付、其身一代御用人支配被仰付、

御扶持方拾人扶持被下置、御書物方之御坊主動ハ御免被成、是迄被下置候御充行八石式人扶持之儀者以後不被下候旨被仰付候

一同日御手元方四書五経五部ツ、被下置、弟子共之内へ貸遣、猶以引立候様ニとの御沙汰之旨、御側御用人を以被仰付候

一安政二卯正月九日学問所御取建二付取調掛り被仰付候

一安政二卯三月十五日学問所御取建二付其身一代之名目被差除、助教役被仰付、大御番格二被成下、役中御足五人扶持被下置、御側役支配被仰付候

一同年五月廿九日右二付訓導師被仰付候

一安政三辰四月廿一日昨年明道館御端立之処、出精二付御下緒一御袴地一被下置候

一同年十一月十四日御軍制之儀二付橋本左内次席被成下、是迄之通御側役支配被仰付候

一同四巳二月廿四日内達之趣も有之二付、助教役并明道館御預御免被成、格式之儀一昨卯年已前二被復、役中御足五人フチ之儀ハ以後不被下候

一同年三月四日先年居宅之内指上ケ訳合も有之二付、是迄土居方下役被指置候家屋敷被下置候

一安政四巳五月廿九日御世譜方御用被仰付候

一同五年九月廿九日當時御世譜方繁勤罷在少御充行ニも有之、且年来學問厚心掛候ニ付、別段之訳合を以年々俵数式拾俵ツ、被下置候

一万延元申十月廿日都講役被仰付、大御番格ニ被成下、役中御足五人扶持被下置、御側役支配ニ被仰付候

但是迄年々被下置候俵数式拾俵ハ以後不被下候事

一文久二戌三月十一日御足五人扶持其儘、堀土居奉行徳山三左衛門跡被仰付、右ニ付學問所役配之儀ハ御免被成、身分之儀ハ役中御目付支配被仰付候

一同年六月廿五日御掃除奉行小野太郎太夫跡被仰付、御足五人扶持其儘被下置、御留守居支配ニ被仰付

一元治元子五月廿日助教役被仰付、右役中御足式人扶持、都合七人扶持被下置、御側役支配ニ被仰付候

一同年十二月賊徒一件出張ニ付、御手当三百匁被下置候

一慶応元丑十一月四日明道館外塾共生徒教育筋重二世話致心配候様被仰付但侍読之儀是迄之通可相心得候

一慶応三卯正月廿九日明道館教授役被仰付、御書院番組江被入、役中御足三人扶持御増、都合拾人扶置被下置候

一同四辰閏四月十六日教授役ニも不似合心得違之儀有之、休息之上遠慮被仰付、養子謹一郎へ家督拾人扶持無相違被下置、外塾師助其儘被仰付、役御番組へ被入候、五月七日遠慮御免

一明治二巳四月廿日學事ニ付宿年之勤功ヲ被思召候、仍為御慰勞年々金五十兩ツ、被下候

吉田謹一郎

〔役成〕

拾人扶持

慶応四辰閏四月十六日養父悌藏教授役ニも不似合心得違之儀有之ニ付休息、家督拾人扶持無相違、外塾師助其儘役御番入、此節遠慮

吉田¹⁰

御取立已前御記録ニ有之

※「剝札」よ末にあり

吉田弥兵衛

拾八石三人

元治元子五月十八日出精相勤候ニ付御取立被成、役義其儘新番組江被入候、且又右ニ付御本城橋江罷出候義ハ被指除候事

一同年八月二日酒井与三左衛門方江附添上京、同十一日帰着

一同年八月御上京御供、夫方長征、丑二月八日帰

一慶応元丑九月廿日病死

吉田強哉 才太郎

拾八石三人

慶応元丑十一月十一日親弥兵衛家督拾八石三人扶持無相違被下置、新番組江被入

安政七申三月廿日御徒ニ被召出、御充行近年御定之通被下置候

一同三亥十月十三日中将様御上京御供被仰付、出立

一元治元子四月廿三日右御供ニ而帰

一同年十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀五拾匁被下置候

一慶応元丑閏五月十一日外塾師手伝同様被仰付

一同年八月廿四日右手伝同様御免被成候

一同年十一月十二日京都詰出立

一同三卯四月四日御上京御供、振替り帰

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付候

一同廿五日新番組ニ被仰付候

一同四辰五月十一日遊撃隊江被入候

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張ニ付十三

兩被下候、外二三千疋

一明治与改元、十二月廿八日才太郎事強哉与名替

一同二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同三年四月廿五日北越出張各所戰爭拔群尽力ニ付、御賞典之内永世十石

令頒授候事

一同年六月廿八日第一大隊二番小隊江被入候事

一同年九月廿五日寄宿所入込後学業怠惰ニ付、寄宿所相除ケ登校差留候事

一同日右ニ付恐入伺之上謹慎、十月四日被免

一同年十月四日是迄住居罷在候屋敷地拝地ニ被成下候

一同年十二月 予備一番隊

一同四未二月廿九日依病氣願隠居

吉田
11

吉田源八郎

高百石

〔役成〕

元治元子九月朔日今度長州人京師乱入、堺町御門戰爭之砌、大砲差配行

届格別相働候、為御賞与力方被召出、大御番入、相身躰末席

慶応元丑五月廿八日四番之大砲方、役御番入

同四辰閏四月十一日大砲隊

同年六月十九日御役名已来大砲分隊長卜御改

横山
1

慶安三年ノ被召出

横山藤八

百石

貞享二丑二月廿五日父十郎兵衛跡目百五拾石無相違、勤新番

但シ同三年一同半知

同四卯大番入

元禄十二卯七月廿五日御代官

横山源次郎

百石

宝永七寅二月廿二日被召出、父藤八拜知無相違

但正徳二辰三月十九日兵法之師役被仰出付、御取立除被下、席常之座へ

入

横山次郎四郎

式拾五石五人

享保七寅二月廿九日父源次郎為跡目拾人扶持被下、御留守番入

同十九寅九月大番入

寛保元酉三月十六日兵法師役

延享四卯二月十五日御切米貳拾五石五人扶持被成下

横山藤八郎

廿五石五人

宝曆三酉十一月廿一日横山次郎四郎嫡子幼年二付流儀之劍術断絶二付、

甚五郎へ跡目被仰付、御擬作無相違被下、次郎四郎倅養育可仕旨、尤後

見瀬尾権八横山七五郎へ被仰付

同十二年三月廿九日師役

安永九子十一月廿一日御代官田辺奥左衛門跡、御留守番入

天明五巳正月十六日御預所御代官田辺奥左衛門跡

横山十郎兵衛

廿五石五人

寛政五丑九月朔日養父藤八郎年寄候二付休息被仰付、家督無相違被下置、

大番組へ被入、師役被仰付

文化元子十月廿四日御先武具奉行高松権太夫跡

文化四卯六月五日御代官古石百右衛門跡

文政二卯二月廿日休息

横山十郎兵衛 藤八郎

廿五石五人

一文政二卯二月廿日父十郎兵衛休息、家督無相違被下置、大御番組江被入、

兵法師役被仰付候

一天保十二丑四月廿日上水奉行広部甚五左衛門跡被仰付候

一弘化四未二月十四日御代官役高久官太夫跡被仰付、御留守番組江被入候
一嘉永四亥二月十一日年寄候二付休息被仰付候

横山藤八郎 隠居後可了

廿五石五人

一嘉永四亥二月十一日親十郎兵衛年寄候二付休息、家督廿五石五人扶持無

相違被下置、大御番組江被入

一安政四巳四月廿二日数代師役相勤、別而近来出精太儀二思召候、依之御

目録銀五枚被下置候

一同六未二月五日御留守武具奉行吉田新左衛門跡被仰付、御留守番組へ被入候

一万延元申六月廿六日御番出精二付御褒詞

一文久三亥五月廿二日御武具奉行頭取被仰付、右勤中御足充行三石被下置候

一元治元子十二月賊徒一件二付出張、御手当銀三百匁被下置候

一元治二丑三月廿日出精相勤候二付御足充行貳石御増、都合五石被下置候

一慶応元丑閏五月十二日御趣意二付役御番組へ被入候

一同日昨年来非常之御用繁相勤候二付御褒詞被成下候

一同廿九日役儀其儘御書院番組へ被入候

一同年十一月廿九日近年御武具方御用多二付、専ら御用弁筋致心配候とハ乍申不都合之廉も相聞候二付、移りを以御叱被成候、但右二付伺之上指

扣、十二月六日御免

一同二寅六月廿日御書院番其儘往還道奉行高久官太夫跡

但転役被仰付候二付、是迄年々被下候御足充行之儀ハ已後不被下

横山吉太夫 小作事

候

- 一同年十一月十一日先役中御武具御修復御改正中出精相勤候二付、金三百疋被下置候
- 一同四辰閏四月十一日役前勤向之義郡奉行へ申談候様被仰下候
- 一明治二巳二月十六日年寄二付休息
- 未五月十日藤八郎事可了



2

横山吉太夫 病死

拾八石三人 七石二人御足

安永八亥九月廿日御帳附方御取立、新番入、御右筆部屋下請込勤方は迄之通於江戸

天明八申正月六日於江戸御切米三石御加増、外七石二人扶持御足擬作被下、御右筆部屋下受込其儘御右筆兼帯御書院番入、順席

横山吉太夫 荣寿 病死

拾八石三人

寛政十一未二月七日父吉太夫休息、家督無相違、大番入

文化六巳八月廿八日御国許へ引越被仰付

文化九壬申二月廿九日御番改沢田助右衛門跡被仰付

文政十丁亥四月廿日御代官雪吹牛兵衛跡

拾八石三人

- 一文政十三寅七月九日養父吉太夫跡知無相違、拾八石三人扶持被下置、無役御留守番組へ被入
- 一天保五年九月三日大御番組へ被入
- 一弘化四未十月廿五日不慎二付遠慮
- 一安政六未九月廿五日御持武具奉行井上次郎八跡被仰付、御書院番組へ被入候

一万延元申六月廿六日御番精出候二付御褒詞

一同年十二月十六日御旗本武具奉行被仰付、御留守番組へ被入候

一文久三亥八月廿三日御留守武具奉行并弾薬方兼帯被仰付候

一元治元子五月廿日御祈禱奉行勝木伝右衛門跡被仰付、大御番組へ被入候

一同年八月廿七日倅廉弥逼塞被仰付、伺之上差扣、九月二日御免

一同年十二月賊徒一件、御留守御用二付銀百匁御手当被下

一慶応三卯七月廿一日年寄候二付休息

横山儀兵衛 廉弥

拾八石三人扶持

慶応三卯七月廿一日養父吉太夫休息、家督無相違、大御番入

同四辰三月十六日御留守番入

同年四月廿五日遊撃隊入



3

横山強

〔役成〕

〔役成〕

五人扶持 外役中三人扶持足

慶応四辰四月廿五日被召出、一番遊撃隊入、御扶持方五人扶持、役儀二付末之番外格、役中三人扶持御足、席永見造酒次

同五巳十二月廿六日奥御納戸
同七未四月五日御部屋附奥御納戸
寛政二戌二月四日年来相勤候二付、是迄之御足擬作二石老人扶持御結被下

横川

横川定六

廿三石四人

正徳五未五月三日父半六跡目無相違

享保十七子十月十五日江戸定御留守武具奉行御留守番入

宝曆八寅九月廿三日悴吉十郎御擬作被召上蟄居被仰付候二付、役義御取

上新番へ被入、此節遠慮

同十辰十二月廿二日年来相勤候二付大番

横川権十郎 病死

廿五石五人

寛政四子三月廿五日養父庄三郎病氣二付休息、家督無相違、大番入

同七卯四月朔日御裏役御書院番入

同七卯八月九日御小性席高田三郎左衛門上

横川吉十郎

貳拾五石五人

寛政十一未四月十七日養父権十郎跡目無相違、大番入

同十一月三日中将様御附御小性

同十三酉正月十四日同御小性頭取

文化六巳八月廿一日此度隆徳院様御逝去二付御附御小性頭取御免、大御

番入

文化十酉二月晦日御部屋附御近習番御書院番入

文化十一戌四月病死

横川吉十郎 辰太郎事

百石

一文化十一戌六月七日父吉十郎跡目、幼年二付七人扶持被下置、無役御留

横川庄三郎 吉十郎

廿五石五人

寛延元辰十一月十四日御部屋附御小姓被召出

宝曆八寅四月十七日御代替二付御小姓御免、御近習二被指置

同五月廿八日表御小姓

宝曆八寅九月廿三日蟄居、御充行被召上

同九卯八月廿六日当春蟄居御免、今日再ヒ嫡子二御立被下

宝曆十一巳二月十六日父定六休足、家督無相違、大番入

天明三卯十月七日江戸御裏役杉山市左衛門跡、御書院番入、二石老人フ

子御足擬作被下

守番組へ被入

一同十二亥十一月十九日若殿様御相手、且又恒五郎様御附被仰付候迄兼帶、年々失却金九兩被下置、御小姓末二被差置候

一同十五寅二月五日拾五歳相成候二付、御定法も有之候へ共思召を以廿五石五人扶持被成下、尤失却金ハ以後不被下候

一文政四巳七月廿三日御附御小姓被仰付候

一同十二丑十二月十一日若殿様御附御小姓被仰付

一天保六未五月廿九日超倫院様御逝去二付御附御小姓御免被成、大御番組へ被入

一同年六月五日浅姫君様御附御広敷御用達平野新七跡被仰付候

一同年十一月七日今般御家督御引移二付御褒詞

一同九戌二月七日役義其儘謹姫様御被仰付候

一同年三月十九日謹姫様御婚姻御用掛り同様出精二付、金貳百疋被下之

一同十四卯五月十六日役儀其儘格式末ノ番外被仰付、御充行拾七人扶持二御直シ被下

一弘化三年四月廿四日新知百石

一嘉永元申八月廿五日御広敷御用人見習御先物頭次席、御役料五拾石被下置、謹姫様御附其儘、且又是迄被下候失却金拾兩以後不被下候

一同三戌正月廿九日御役料百五拾石被下置候

一同五年十月十日清心院様御附御広敷御用人本役被仰付候

一同五子十月廿四日謹姫様御逝去二付御役御免被成、席御役料其儘御近習

二被指置候、且又是迄出精被相勤候太儀思召候、此段申聞候様被仰出候

一文久三亥三月十二日清心院様御供二而備後福山江引越出立之處、五月十

横川

六日歸着

一同年九月廿九日病死

横川亥之助

高百石

文久三亥十二月三日父吉十郎跡知無相違、大御番入

同四子正月廿八日御小姓

吉池

元和二年被召出

吉池角左衛門

貳拾五石五人

貞享三寅八月父武右衛門跡目五人扶持被下

元禄十四巳五月廿九日御切米被下

宝永五正月廿二日番改被仰付

享保二酉八月廿九日御代官

祖父覺左衛門御取立、隆芳院様御代御取立子孫二付

正徳三巳八月十五日順席被仰付趣右同断

吉池覺左衛門

廿石五人

享保十五戌八月廿五日父覺左衛門跡目被下、大番入

宝曆十一巳六月十一日番改榊原三左衛門跡

吉池武右衛門

[役成]

廿石五人

明和四亥八月十六日父覺左衛門跡目無相違、大御番入

吉池角左衛門 鍋五郎

廿石五人

寛政五丑十一月十六日父武右衛門家督無相違被下置、大御番組へ被入

文化十四三月十一日御右筆見習

文化十三子九月病死

吉池角左衛門 酒井喜四太

廿石五人

一文化十三子十一月十一日養父角左衛門病中願之通養子被仰付、家督無相

違被下置、無役御留守番組江被入候

一文政五年十月二日大御番入被仰付候

一同十三寅六月六日御広敷御用違被仰付候

一天保八酉九月十一日御留守武具奉行竹内五太夫跡被仰付候

一弘化三年閏五月廿五日御花畑絵奉行高嶋仲右衛門跡被仰付候

一嘉永三戌三月十六日御代官役荒川三郎太夫跡被仰付候

一同七寅十一月廿九日年寄候二付休息

吉池角兵衛 楽瓢 実大崎七之助弟

式拾石五人

一嘉永七寅年十一月廿九日養父角左衛門年寄候二付休息被仰付、家督廿石

五人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入候

一安政三辰九月十六日大御番組へ被入候

一同六未二月五日御先武具奉行笹倉右内跡被仰付候

一文久二戌十一月廿五日来春殿様御上京被遊候二付為御待請出立

一同年十二月十一日玉薬奉行水野勘四郎跡被仰付、御留守番組へ被入候

一文久三亥八月廿三日御旗本武具奉行横山吉太夫跡被仰付候

一同年十一月廿一日製造方被仰付

一元治元子六月廿日製造局勘定掛り被仰付候

一同年十二月賊徒一件二付出張、御手当銀三百匁被下置候

一慶応元丑五月廿八日御趣意二付役御番組二被仰付候

一同年閏五月廿日製造局勘定掛り弾薬方兼被仰付候

一同年六月五日出精相勤候二付年々銀三枚ツ、被下置候

一同二寅八月廿日、去月廿二日夜於途中伊藤音之助与不図及取合候節、酒

狂与ハ乍申心得方も可有之処、無其儀同人致打鄭數ヶ所疵為負候始末、

不法至極之趣相聞不調法之事二候、依之急度も可被仰付之処、御憐愍を

以蟄居被仰付、倅肥久馬江家督拾八石四人ふち被下置、新番組江被入、

遠慮被仰付候、兩人共急度相慎可罷在候、肥久馬儀ハ在京中二付罷帰候

上一家共之内二而申渡候様被仰付

一明治二巳六月角兵衛事楽瓢卜改

一明治二巳七月十一日今般之大赦二付隠居之御取扱二被成下候

吉池喜登太 肥久馬 清一

切米拾八石四人扶持

一慶応二寅八月廿日父角兵衛不法至極之儀有之二付蟄居、家督拾八石四人

扶持、新番入

〔役成〕

同三卯十月廿五日第二遊擊隊入

同四辰四月廿五日遊擊隊入



吉樹源五左衛門

貳拾石四人

元祿七戌五月二日被召出

吉樹多内 多吉 病死

廿石四人

享保十七子三月六日父源五左衛門為跡目幼年ニ付五人フチ被下、御留守

番入

元文三年二月七日父之通御切米被下、大番入

宝曆十辰四月廿九日御番改伊黒弥五太夫跡

明和五子十月五日痛所有之二付役義御免

安永二巳八月廿九日玉葉奉行田中伊右衛門跡

同八亥九月廿日表御納戸小堀伝右衛門跡

吉樹多内

廿石四人

天明四辰七月廿九日養父多内跡目無相違、大番入

廿石四人

一文化十四丑二月廿九日親多内病身ニ付内願之通休息被仰付、家督無相違

被下置、無役御留守番組江被入候

一文政十三寅五月 大御番組江被入候

一弘化三年十月五日武沢七左衛門跡、御番改役被仰付候

一嘉永四亥五月十六日御留守武具奉行加納平右衛門跡被仰付、御留守番組

江被入

一安政二卯正月廿八日御広敷御用達被仰付候

一同三辰十月十一日年寄候ニ付休息

吉樹友太郎

切米廿石四人扶持

安政三辰十月十一日父源蔵休息、家督無相違、大御番無役入

文久二戌閏八月八日大御番入



吉倉茂右衛門

拾七石四人

享保三戌七月廿八日養父源次跡目

享保七寅冬順席

吉倉茂右衛門 能三郎 病死

拾七石四人

吉池

吉樹源蔵 多三郎 源五太夫

〔役成〕

元文元辰八月廿九日養父茂右衛門跡目被下、大番

宝曆四戌三月廿二日御留守番入、御留守武具奉行寒江与兵衛跡

同十辰三月廿九日用水奉行

明和七寅閏六月廿日御代官

天明五巳六月十日日本受込下代不届之儀有之二付御役御取上、大番入、閉門

吉倉茂右衛門

廿石四人

天明五巳十月廿九日養父茂右衛門跡目無相違、大番入

同八申七月廿九日御代官矢嶋七郎右衛門跡、御留守番入

享和二戌年七月廿日三石御加増、都合廿石四人扶持被成下、御勘定所吟

味役

文化三寅六月十六日役義御免、指扣

同四卯十月五日御広式御用達御留守番入

同九申十月廿五日用水奉行山田伝右衛門跡

文化十三子七月五日御代官役桜井与右衛門跡

文化十五寅正月廿日下代共之内每度不埒之義有之二付遠慮被仰付候

文政元寅年九月四日御預所御代官山田清兵衛跡被仰付

文政七申七月十一日休息

吉倉茂右衛門 鉄五郎

廿石四人

文政七申七月十一日親茂右衛門家督無相違、無役御留守番入

同十二、大御番入

文政十三寅八月廿五日改役小堀伝右衛門跡

天保三辰五月十三日役儀失念之義二付伺之上指扣

同五年五月廿九日用水奉行中山仙右衛門跡被仰付、御留守番組へ被入候

天保七申三月五日御内用御祐筆被仰付、五石一人扶持御足

天保十一子五月十一日御代官田川清介跡

吉倉鉄五郎

切米廿石四人扶持

天保十四卯五月三日養父茂右衛門跡目無相違、無役御留守番入

弘化三年八月廿九日大御番入

安政四巳十一月廿五日御製造方見習

同六未二月五日番改

文久四子二月廿五日御勘定吟味役御留守番入、役中五石一人扶持御足

元治二丑四月十一日御作事方改役御普請方改兼、大御番入

慶応元丑五月廿八日御趣意二付役御番入



米岡加兵衛

拾七石四人

享保四亥三月十六日於松岡御取立

同七寅年新番

同八卯三月廿九日料作奉行

〔役成〕

同十巳七月御借米方

同十二月十六日式石御加増、都合拾七石被成下

同十一年三月十六日御代官御留守番入

米岡吉右衛門 父加兵衛

拾七石四人

享保拾七子閏五月廿五日父加兵衛跡目無相違、大番人

寛延三年七月廿三日相身躰末席、御番割之節

米岡次太夫

拾七石四人

明和元年申八月五日養父吉右衛門跡目無相違、大番人、相身躰末

安永三年十月十七日年数相満候二付順席

同十丑正月十五日御広式御用達有沢権四郎跡、御留守番入

天明三卯三月朔日江戸詰中斗五石御足

同四辰十一月十五日五石被下止ム

米岡次右衛門

十七人

天明四辰十一月十五日被召出、五人扶持被下、御留守番入、御右筆見習

同五巳十月十一日御右筆本役、御合力銀十枚被下、御書院番入

同八申八月廿八日父次太夫休息、家督無相違被下、御右筆其儘御書院番、

八石一人扶持御足擬作被下

享和三亥二月廿二日御右筆請込御帳付支配、御足擬作御加増被成下

文化七午十月廿九日役義御免、御書院番二被指置

同八未三月廿日御籙本武具奉行林孫兵衛跡

文化十一戌十二月九日御作事改役坂本平左衛門跡

同十四丑六月廿日川除奉行同吟味役兼帯

文政二卯二月廿日往還道方奉行被仰付

文政七申年三月廿九日御趣意二付川除奉行頭取兼帯被仰付候

文政八乙酉三月六日年来出精相勤候二付格式末之番外被仰付、御充行十

七人扶持二御直被下、川除吟味役被仰付、勤向是迄之通

同九戌六月十六日倅伝七郎不埒二付蟄居、親次右衛門遠慮

同年十月五日往還道方奉行御免

文政十亥六月十一日役義御免、席其儘

米岡伝左衛門

拾七人扶持

文政十二巳丑十一月十六日親次右衛門年寄隠居、家督十七人扶持被下、

大御番組へ被入

嘉永 五月 病死

米岡源太郎

拾七人扶持 外式人扶持御足

嘉永元申七月十一日父伝左衛門跡目無相違、無役御留守番入

同三戌九月五日大御番入

安政四巳閏五月廿九日御製造方見習

同五年十一月十六日制産方

[役成]

文久二戊十一月八日御役前御都合も有之二付、御留守番入

同年同月廿六日養蚕御端立方格別出精相勤二付、二人扶持御足

元治元子十一月十三日産物会所吟味役

慶応三卯四月廿二日出精相勤二付役儀其儘末之番外格、席大野三左衛門

次

同年八月廿六日御趣意二付役儀御免、是迄出精相勤候二付御足御扶持其

儘

同年九月十一日製作方

依田²

依田官左衛門

切米廿三石五人扶持

慶応二寅十月廿二日御趣意二付与力方被召出、新番並、御充行廿三石五

人扶持

同三卯十月廿五日新番並組

同四辰五月十一日御趣意二付無役組江可入処、御広間当番勤、御留守番

入

〔役成〕

依田¹

依田鉄三郎

廿三石五人

一弘化三年十月廿三日かどく

慶応二寅十月廿二日今度御趣意二付被召出、新番並組二被仰付、御充行

之儀ハ廿三石五人扶持被下置候、且又席之儀ハ家督順二被仰付候

一同三卯正月九日什長被仰付候

一同月廿五日病氣二付内願之通休息

〔義江半右衛門 半右衛門 徳一

〔役成〕

義江

切米廿三石五人扶持

慶応二寅十月廿二日御趣意二付与力方被召出、新番並、御充行廿三石五

人扶持

同三卯十月廿五日第二遊撃隊入

同四辰四月廿五日遊撃隊入

〔役成〕

依田周次郎 信次郎

切米廿三石五人扶持

慶応三卯正月廿五日父鉄三郎休息、家督無相違、新番並入

同年十月廿五日新番並組

同四辰三月五日製造方見習

同年五月十一日御趣意二付役中役御番入

吉江¹

吉江庄兵衛

〔役成〕

切米廿三石五人扶持

慶応二寅十月廿二日御趣意二付与力^ら被召出、新番並、御充行廿三石五人扶持

同三卯十月廿五日第二遊撃隊入

同四辰四月廿五日遊撃隊入

吉江²

吉江重四郎

〔役成〕

切米拾五石三人扶持

元治元子十月八日御具役中新番格

慶応四辰閏四月十六日喇叭役、御具役御免、勤中是迄之通新番格